

ほおずき



夏祭りや縁日などで売られているほおずき。上手に種を出して作るほおずき笛の「ブーブー」と鳴る音は、楽しい夏の思い出の音でもあります。

【作り方】

- ① 袋状の皮をむいて赤い実をガクにつけたまま、柔らかくなるまで、よくもみほぐす。
- ② かたい実がほぐれてくると、ガクを回せば、赤い皮の下で回り灯籠のように芯と一緒に種がぐるぐる回り出す。



- ③ すっかり柔らかくなれば、ガクから赤い実をそーっと抜くと、種も芯もうまく出るようになる。そのときガクから実だけがもげてしまわずに、芯がガクについたまま抜けるのがいちばんよい。

そこで子どもたちは

♪ 根出る たね出る ねぼつきになれ〔栃木〕♪
 ♪ 坊主になんな 根づきになれよ〔長野〕♪

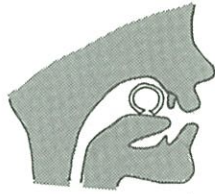
などと唱えながら、種や芯を取り出す。



- ④ 種か芯が残ったまま、ガクから実がもげてしまったら、ツマヨウジなどで取り出す。

《遊び方》

- ① ほおずきを膨らまし、種を取り出した穴を下にして舌の上のせる。
- ② 上歯ぐきと舌とでギュッとおさえて鳴らして遊ぶ。
- ③ つぶれたほおずきは吸う息でふくらませ、またギュッと吹き鳴らす。



ほおずきの歴史

ほおずきを吹き鳴らす遊びは古くからあって、平安時代の宮中でも親しまれていたようです。『栄花物語』には、「酸漿（ホオズキの漢名）などを吹きふくらめて」という言葉があります。ほおずきは古くから婦人や子どもの健康を守る薬用ともされていたので、こうした遊びも生まれたのでしょう。実の大きい丹波ほおずきがもてはやされ、江戸時代にはそれを売り歩くほおずき売りの姿もありました。